特定非営利活動法人
おおいた子ども支援ネット

にじいろはーと vol.24

2023
発行日
2023年3月吉日
発行元
特定非営利活動法人
おおいた子ども支援ネット
事務局

暖かい春の日差しを感じる頃となりましたが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。
いつも変わらぬご高配を賜り、心より、厚く御礼申し上げます。
２０２３年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。
さて、今年度も残り僅かとなりました。今号では、各事業での『卒業』や“１年間の振り返り”をテーマにご紹介させていただきます。
まずは、事務局からお知らせです。

事務局移転しました!!

―九州若者サポートネットワーク構築事業に採択されました―

来年度より３年間、JANPIA 休眠預金通常助成事業に「九州若者サポートネットワーク構築事業」が採択されました。この事業は、児童養護施設や里親家庭など、なんらかの事情があって公的な支援のもとで育ったこども・若者等が、社会のなかで自らの力を発揮して生きていくことを応援する九州全域のネットワークをつくっていきます。

当法人は幹事団体として、社会福祉法人グリーンコープ（福岡県）とコンソーシアム型の運営を構築していきます。本事業を通じて九州各県の様々な団体が横につながりあえるといいなと思っています。

そのようなご縁をいただく中で、少し広く会議やミニ研修などができる事務局の設置が必要となり、このたび移転をすることとなりました。

【新しい事務局所在地】
〒870-0043　大分市中島東1丁目3－5　シャガール中島 2F
「特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット事務局」
TEL/FAX　(097)574-6108 / (097)574-6109
MAIL　jimukyoku@oita-konet.net

※電話番号・FAX・メールアドレスに変更はありません。

新しい事務局はようやく必要な物品が届き、ネット回線も開通。
周辺の地域の方々とこれから親睦を図りながら、心地のよい場所にしていきたいと思います。

九州サポートネットワークの状況等はおってみなさまにもお伝えしていければと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

こどもセンター
かおるおか

卒園の季節（とき）を迎えて

3月になり春の陽気が感じられるようになりました。卒園の日はもう間近です。そう思うと、かおるおかでのたくさんの思い出がよみがえり、その時々の感情もまた思い出されます。

子育てに行き詰まり親としての自信を無くし、毎日泣いていた頃。わが子を愛してくれる人はいるのだろうかと、不安のなか初めてかおるおかを見学した日。・・・

・・・「いつもは苦手な〇〇を食べました！」と給食エピソードの報告を受けたときの嬉しかったこと。思わず「すごいね！」と撫でた頭の、あの感触。

入園当初は、家のやり方とは違う園生活に「これで良いの？」と戸惑ったことも数々ありました。

かおるおかの2階からそっと下を眺めると、楽しそうに遊んでいるお友達の姿は、なぜか自然と笑みがこぼれて心がほっこりしたものです。

体を揺らし楽しそうに歌を歌ったり、先生の踊りを真剣な眼差しでまねっこしたり・・・。サーキットで先生の手を借りながらもチャレンジしているお友達。力強くトランポリンを楽しんでいるお友達。先生の横にちょこんと座ってたくさんの絵本を広げているお友達。

お山に登ったり、穴を掘って水を流したり、こども達の遊びがだんだんと高度になっていることに驚いたなぁ。砂場でどろんこになりながら、満面の笑みでおままごとを楽しんでいるお友達。ほら見て！カマキリつかまえたよ！と走ってきて教えてくれたお友達。夏の暑い日に水浴びしながらも、テラスを元気いっぱい駆け巡るこども達。お迎えの時に、ニコニコ笑顔でさようならのタッチをしてくれたお友達。

どの瞬間もどの場面も、こども達はいきいきと輝いていて、すっごくかわいかったです。たとえ、何かに悔しくて泣いていたり、思いが通らず泣き叫んでいたりしても、それさえも微笑ましく感じました。

去年、頂いたわが子のアルバムを見て、「園ではこんなすてきな笑顔で過ごしているんだ」と、家とは違った表情のわが子にうれし涙を流したこともありました。

しかし、実生活では嬉しいことも楽しいこともある反面、日々迷いや葛藤もあるのが現実です。さらに、わが子の成長に関して不安や悩みも尽きません。

でも、かおるおかに通わなければ、こんなに自然できらきら輝くわが子を見ることはできず、一つ一つの行動には意味があるということをおそらく理解できなかったと思います。

お日さま、風や雨、海や空の青さや広さ、色とりどりの花や果実の香り、鳥の鳴き声、たくさんの虫、たまにお目見えするおサルさん、そしてこども達を心から思ってくれる先生方やご近所の方々、子育ての大変さを分かち合えたママ達。すべてが「自然」で、この「自然」がこども達だけでなく、私達親をも包み込んでくれました。ありのままを受け入れてくれる場所と人達がいるかおるおか。いつしかこども達にとっても、私達親にとっても、安心できる場所となっていました。それはかおるおかのこども達のきらきらした姿がすべてを物語っています。ありのままを受け入れてくれる環境だから、かおるおかのこども達には優しさが自然と身についていると思います。このようなすてきな園で幼少期を過ごせたことは、何ものにも代えがたい宝です。愛してくれる人がいるという自信をこども達もきっと感じとっていて、そしてそれは、この先歩んでいくうえで大切な礎となってくれるはずです。

一方、私自身は親としてだけでなく、人として気づかされることも多々ありました。また、幾度となく心救われ、入園当初の迷いや葛藤、不安や悩みが少しずつ昇華されていったものです。・・・・・・

・・・見過ごしがちなささやかなわが子の成長に、大きな喜びを感じられる幸せがあるということに気づきました。わが子を通しての学びは、力強いです。そしてそれこそが、強みでもあります。

新しいステージになるにあたり、親として不安はもちろんあります。そして、新たな悩みもきっと出てくるでしょう。でも、入園前のあの不安だらけの時とは違う。たとえここ数年で劇的に変化している社会であっても、かおるおかで学び得た自信でもって、これから先、一歩一歩、歩んで行けそうです。

どうか、卒園してからも誰もが愛され、温かい気持ちで見守られますように。そして、みんながすくすくと健やかに成長しますように。・・・・・

・・・かおるおかで共に過ごしたすべてのお友達、ママ達、温かい目でこども達の成長にご指導下さった先生方、毎日愛情たっぷりの給食を作ってくださる調理の先生方、色とりどりのお花を季節ごとに運んで下さるご近所の方々・・・、見守って下さったすべての方々に心から感謝申し上げます。どのこども達も、毎日が平穏無事であることを心から祈っています。

桜の花がほころぶ心躍る季節。でもちょっぴり、切ない気持ちも入りまじる季節となりそうです。

送ることば

卒園おめでとうございます。

卒園される皆様は、かおるおかでいろいろな経験や成長があったことを思い出されていることと、幸せな気持ちで想像しています。

私たち親子が通い始めた頃は、不安な気持ちでいましたが、お兄さんお姉さんが「一緒に遊ぼう」と優しく声をかけてくれたことが嬉しく、ホッとした瞬間を思い出しました。

かおるおかの豊かな自然のなかで、追いかけっこをしたり、草花を使っておままごとをしたり…生き生きのびのびと過ごしているみんなの姿が印象に残っています。

かおるおかで素敵なお友だちに出会え、一緒に過ごせたことに感謝でいっぱいです。

これからもいろいろな出会いや経験をすることになると思いますが、皆様にとって素晴らしいものになることを願っています。

放課後等デイサービス

ないろ

低学年

今年度もコロナやインフルエンザが流行し、落ち着かない環境の中で終わろうとしています。そんな中でも『ないろ』は変わらず、にぎやかな声が響きわたり、こどもたちの笑顔が絶えません。たくさんの遊び・ものづくり・自然体験からこどもたちの心身の成長を感じる毎日でした。いつもこどもたちは頼もしく、私たちにたくさんのことを伝え、教えてくれます。そんなこどもたちやご家族といっしょに悩み、考え、共感しながら走り抜けた1年となりました。『ないろ』に何ができたかをしっかり振り返り、今後の支援に活かしたいと思っております。

また春がきます。小学校に入学する新しいこどもたちとの出会いもあります。次年度もたくさんの色に寄り添いながら毎日を大切にしていきます。

高学年

高学年の今年度を振り返ってみました。高学年職員で相談し、まずは小学生と中学生の部屋を分けるところから始まりました。そして、より一層こども達への関わりや理解を深めようと、それぞれ担当を決めて支援を行いました。

五年生は、高学年の一日の流れに慣れた様子で、自分の時間を大事にしながら伸び伸びと元気いっぱいでした。後半は、時間や約束を守って落ち着いて過ごすことができました。

六年生は、学校で低学年のお世話や委員会の仕事、まとめの学習など何かと慌ただしく、疲れて到着することが多かったです。「先生～あのな…やっぱ、いい」という時もあれば、「今日な…」と話しかけてきたりと、思春期らしい距離感がみられました。

中学生は、勉強や人間関係、進級だけではなく進学の悩みや心配、不安を聞かせてくれました。落ち着いて話ができる環境づくりの大切さを感じました。

こどもたちはきっとたくさんの活動の中で、「相手を理解することで自分も認めることができる・認めてもらえるようになる」ことを学んでくれたことと思います。たくさんの育ちを感じさせてくれた一年になりました。

CONET（コネット）

＊大分県内のケアリーバーたち（里親環境や児童養護施設退所者など、いわゆる社会的養育環境を巣立った方々）のつながりとピアサポート機能をデザインする活動です。活動の中心メンバーも全員ケアリーバーです。

CONET PROJECT 始動から約１年。大分市中心部 CONET STATION を拠点に、さまざまな活動を行ってきました。今回は、CONET メンバーの３名とともに、この１年を振り返っていきます。＊（　）は Instagram での呼び名です。

Q:「CONET としてどのような思いで関わってきましたか？
また、活動を通して感じたこと考えたことや、これからどうなっていきたいかを教えてください。」

「ケアリーバーのために、ケアリーバーが考える」――これは CONET で私が大事にしている思いです。ケアリーバーの私たちだからこそ、ケアリーバーのために何か力になれることがあるのではないか、その可能性を信じて活動しています。様々な活動を経ながら、CONET が少しずつ注目されてきていることを実感します。まるで、CONET のような存在がこの社会に必要なものであると私たちに返事をしてくれているかのようです。これからも頑張ります。

（りょたろ）川村涼太郎

私は社会的養護出身の方を始め、応援してくださる人々に勇気や自信を与えたいと思い活動してきました。気軽な雑談や SST 等でこれまで関わっていただいた皆様には、CONET のパワフルな可能性を感じて頂けたのではないでしょうか。「誰か」がして欲しいことを「自分たち」でできるということを誇りに感じています。これから出会う人達にも、たくさんの驚きや楽しみをお届けできるような活動をしていきたいです。　（たくちゃん）後藤拓也

私は、「社会的養護」という存在を知ってもらいたい。ケアリーバーの相談、話し相手の選択肢の一つになれたらと思いながら活動しています。活動していく中で、私達社会的養護経験者のことを支えてくれる人が多くいることを知り、感動しました。私達もその一員になれるよう頑張りたいと思います。社会的養護経験者だからこそ得ることができる（寄贈品、制度、アフターケア、SST など）と伝えていける活動をしたいと思っています。　（うっちー）内田理美

Q:「CONET 事業として１年を振り返り、今後の活動紹介に繋がるメッセージをお願いします。」

昨年の春に芽を出した CONET ですが、この一年でケアリーバー面会やＳＳＴ企画、施設訪問などの多様な活動を展開し、様々な人とつながりました。ケアリーバーや社会的養護関係者に加え、福祉でない他業界の方にまで人脈が広がったことは驚きであり、とても嬉しいことです。多くの枝葉がついてきましたが、欲張らず、けれど貪欲に。この小さなソーシャルアクションが成長して実を結び、ケアリーバーの宿り木になってくれれば幸いです。

Instagram しています！興味のある方はぜひフォロー（@conet_oita）をお願いします☆

CONET_OITA

CONET は Instagram も活用しています！活動報告やコラム、イベントの告知など投稿しています。活動を写真や文にすることで身近に感じてほしい、多くの方に『社会的養護』『ケアリーバー』を知ってもらいたいと思っています。